

理系分野をめざす女性リケジョの 卒業後の進路と キャリアデザイン

～大阪市立大学での女性研究者支援の取り組み～

プロフィール

なべしま みなこ
大阪市立大学大学院工学研究科准教授 鍋島 美奈子

大阪府出身。専門は都市と建築の環境工学および設備工学(都市のヒートアイランド対策や設備の省エネルギー)。
2015年度は女性研究者支援室長、2016年度は女性研究者支援室・女性研究者の研究力向上専門部会長。



日本では、1999年に男女共同参画社会基本法が成立し、翌年に「男女共同参画基本計画」を制定し、男女共同参画社会の実現をめざしています。そして、「2020年までに、あらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%」の目標達成に向けた取り組みが課題となっています。

しかし、現在、大学等の研究機関における女性研究者の割合は14.7%です*。特に理系の女性教員比率は理学系で14.1%*、工学系で10.0%*程度と低い値となっています。こうした状況の中、大阪市立大学では、理系の女性研究者をめざす生徒・学生の裾野の拡大のために、「次世代育成」に取り組んでいます。まずは、自分の体験を踏まえて、理系の女性研究者の生活をご紹介します。



*出典：総務省「科学技術研究調査」平成27年

理系女性研究者の1日

ある大学教員の女性研究者の1日の時間配分を円グラフに示すと図1のような感じになります。

私の場合、平日は朝5時半に起床、朝は出勤までの2時間で、朝食をとり、お弁当を作り、身支度をします。30分程度時間があるときは「朝活」にあてます。「朝活」の内容は様々で、洗濯や掃除をするときもあれば、英会話の練習をすることもあります。通勤時間は毎日往復3時間弱とやや長いですが、この時間は新聞を読んだり、仕事をしたり、睡眠不足を補ったり、意外と有意義に過ごしています。職場にいる時間はだいたい10時間前後です。帰宅後、家族と協力して夕食の準備をし、食べ始めるのが21～22時頃になります。片づけをして、お風呂に入って、少しリラックスをして、24時を過ぎた頃ようやく寝ることができます。研究者でなくても、日本で暮らす仕事を持つ女性は似たりよったりではないでしょうか。

大学の女性研究者の仕事の種類は研究だけではなく、仕事の種類と配分の一例は、図2となります。教育と研究以外にも大学の運営、社会貢献、学会活動など多岐にわたります。大学で働く研究者であれば、学生の夏休みや春休みは、休みと思われるかもしれませんが、実は最も忙しい時期なのです。授業がない休み期間中に多くの行事が入ります。学部・大学院の入試、オープンキャンパス、学会や調査のための出張、集中講義などの行事が盛りだくさんです。土日や早朝に出勤しなければならない日もあります。

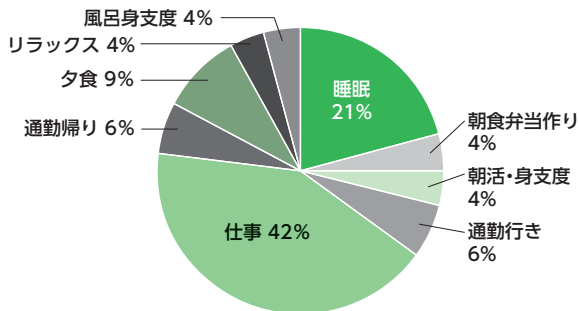


図1 女性研究者の1日

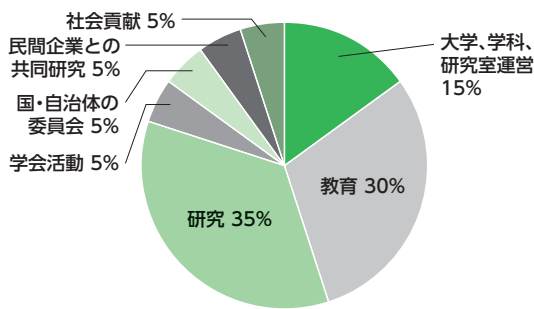


図2 ある女性研究者の仕事時間の配分



「女性研究者支援室」とは？

「女性研究者は、妊娠・出産、子育てや介護などのライフイベントを抱えて、仕事との両立が困難になると、キャリアが中断するのではないか？」「サポートしてくれる家族が近くにいないと、両立不可能な職業なのでは？」と心配する読者もいるでしょう。実際に支援制度がなかった時代には、やむなく両立を断念した女性研究者も少なくないと思います。

幸い本学では、「女性研究者支援室」が中心となり、育児・介護などとの「両立支援制度」が着実に整備され、学内の理解も進んでいます。たとえば、ライフイベントを抱えた女性研究者に実験や調査の補助、授業準備などを手伝う支援員を派遣する制度があります。この制度の活用で、産休明けの仕事復帰を円滑にしたり、子育てや介護に一定の時間が必要な場合でも限られた時間のなかで効率よく仕事を行うことができるようになり、さまざまな世代の研究者に好評です。また、理系進学をめざす女子中高生へのイベント等を企画し、裾野拡大にも取り組んでいます。

今後も女性研究者のキャリア継続や研究力向上支援の取組みを通じて、大学教育・研究の場における多様な人材を確保していくことが重要であると考えています。



次世代育成支援の取り組み ～オープンキャンパスでの支援活動～

大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間の一環として昨年8月7日、「先輩に学ぶ！リケジョの進路と卒業後のキャリアの拓き方」と題し、卒業生によるワーク・ライフ・バランスセミナー(女性研究者支援室主催、大阪市共催)を開催しました。オープンキャンパス期間中に開催し、高校生や大学生等が参加しました。

このセミナーでは、本学理系研究科を修了し、現在、理系の各分野でご活躍中の3名の講師を迎え、大学での進路選択や大学卒業後の進路、就職、結婚、子育てなどについて、赤裸々にお話いただきました。

参加者の感想

- ずっと先のことだと思っていた仕事について知ることができた。
- 将来を見据えて大学の学部、学科選択をし、その将来が仕事だけでなく、育児・家事にもかかわることを聞いて参考にしたい。
- 将来経験する出産や保育園の話を知り、イメージができた。
- 仕事と生活を両立している人の話を実際に聞くことができ、私も研究しながら子どもを育てられたいなと勇気づけられた。



また、今年も大阪市立大学オープンキャンパス「理系女子学生による進路相談会」を平成29年8月5日(土)・6日(日)に開催する予定です。

理学部/理学研究科・工学部/工学研究科・生活科学部/生活科学研究科に所属する、現役の女子学部生や女子大学院生が、来場者の受験や学生生活に関する質問や相談に応じます。学生スタッフの自己紹介ポスター(所属・出身高校・進路選択の決めてや受験生へのアドバイス、研究風景や部活・サークル活動などの学生生活の写真)、学会ポスター、模型やレポート等の課題を展示します。また理系女子学生の卒業後の進路情報を掲示します。

大阪市立大学女性研究者支援室では、理系進学をめざす女子学生の手助けができるようなイベントを今後も実施していきます。



女子中高生のための関西科学塾 ～未来の科学者を育成～

(報告者:大阪市立大学大学院理学研究科 保野陽子助教)

「女子中高生のための関西科学塾」は、科学の面白さを女子中高生や保護者の方に伝え、理系に対する興味や関心を高めてもらうことをめざしています。関西の6つの国立大学が協力して、理科実験教室や講演会を行います。

大阪市立大学では、昨年11月、理学研究科の先生方により5つの実験講座を企画・実施しました。女子中学生56人、保護者の方40人、引率の先生1人と約100名の参加がありました。やさしく丁寧な指導のもと、女子中学生の皆さんは熱心に実験に向き合っていました。

「実験が楽しい・面白かった!」、「科学者のイメージが持てた」との声が聞かれました。保護者の方や引率の先生方からも熱い視線が寄せられ、科学者の姿や未来像をイメージしてもらえたと思います。

ここに参加された生徒さんの中から、将来を担う女性科学者が生まれたらと期待しています。

今年も、秋ごろに実験講座を大阪市立大学で開催する予定です。

本誌をご覧の皆さんも関西科学塾に足を運んでみませんか!

関西科学塾HP <http://kagaku-juku.jp/>

昨年度実施の様子 <https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/contribution/news/2016/5iwn30>



保野 陽子(やすの ようこ)プロフィール
大阪市立大学大学院理学研究科 助教
化学好きが高じて、今の職業に就きました。
2014年大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程修了
2016年まで大阪市立大学大学院理学研究科にて博士研究員
2016年より現職

